

2023年5月28日 No.3669

先週の講壇から

「本当の名前がある」

ヨハネによる福音書 第14章1節～14節

聖句「わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。」(14:13)

1. 《本当の名前》 誰でも自分の名前の読み方や文字を間違えられて、心地良いものではありません。しかし、世の中には自分の本名を奪われた人、隠したり使い分けて生きることを強いられている人もいます。大学の後輩「ユンちゃん」は在日韓国人3世でしたが、差別を受けたことで、自分が誇りをもって生きられるように「本名宣言」をしました。私は彼女との出会いを通して、差別の本質について、名前の大切さについて深く考えるようになったのです。
2. 《本当の自分》 宮崎駿監督の映画『千と千尋の神隠し』では、10歳の少女、千尋が「もののけの世界」に迷い込み、支配者の湯婆ばによって「千」という源氏名に変えられ、自らの記憶さえも奪われます。映画は、彼女が自身の名前と実存を取り戻すための闘いを描きますが、自分を追い求めることで取り戻すのではないのです。同じように奴隷化されている少年を解放することが、自身の解放へと繋がって行くのです。使徒パウロは「使徒言行録」13章8節で「サウロ」から「パウロ」に名前が変わります。キリストとの出会いが彼を変え、それまで自慢にしていた出自や肩書きを、ゴミのように考えるようになります（「フィリピの信徒への手紙」3章5～11節）。本当の自分を見付けることが出来たのです。
3. 《イエスの名》 キリスト者とは「イエス・キリストの御名によって祈る者」のことです。但し、その御名前の中には主の降誕と生涯、十字架と復活、聖霊降臨、御業と御言葉の数々が込められています。「イエス・キリスト」は「イエスこそは救い主」という信仰告白です。それを知る者だけが、御名を正しく呼び求めることが出来るのです。主は「わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう」と仰っています。しかし「御名によって願う」ことは、即ち「ゲツセマネの祈り」を祈ること、祈りが叶えられることは、主の栄光が顕わされることと心得ましょう。実は、それが私たちが枷や軛から解放してくれるのです。

朝日研一朗牧師